

III 調查結果

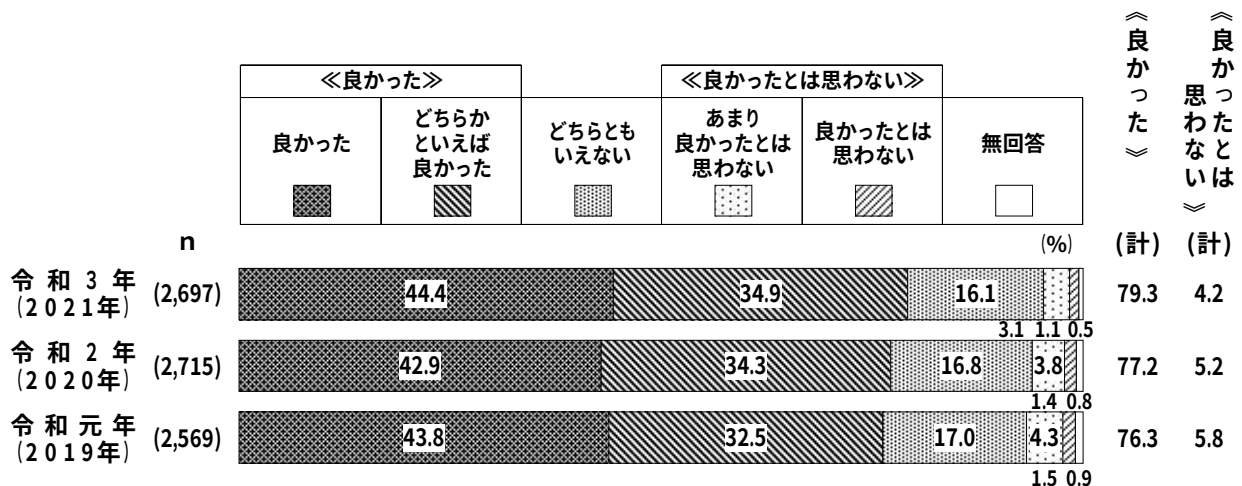
1. 定住意向

(1) 八王子市に住んで良かったと思うか

◇《良かった》が8割弱

問1 あなたは、八王子市に住んで良かったと思いますか。(○は1つだけ)

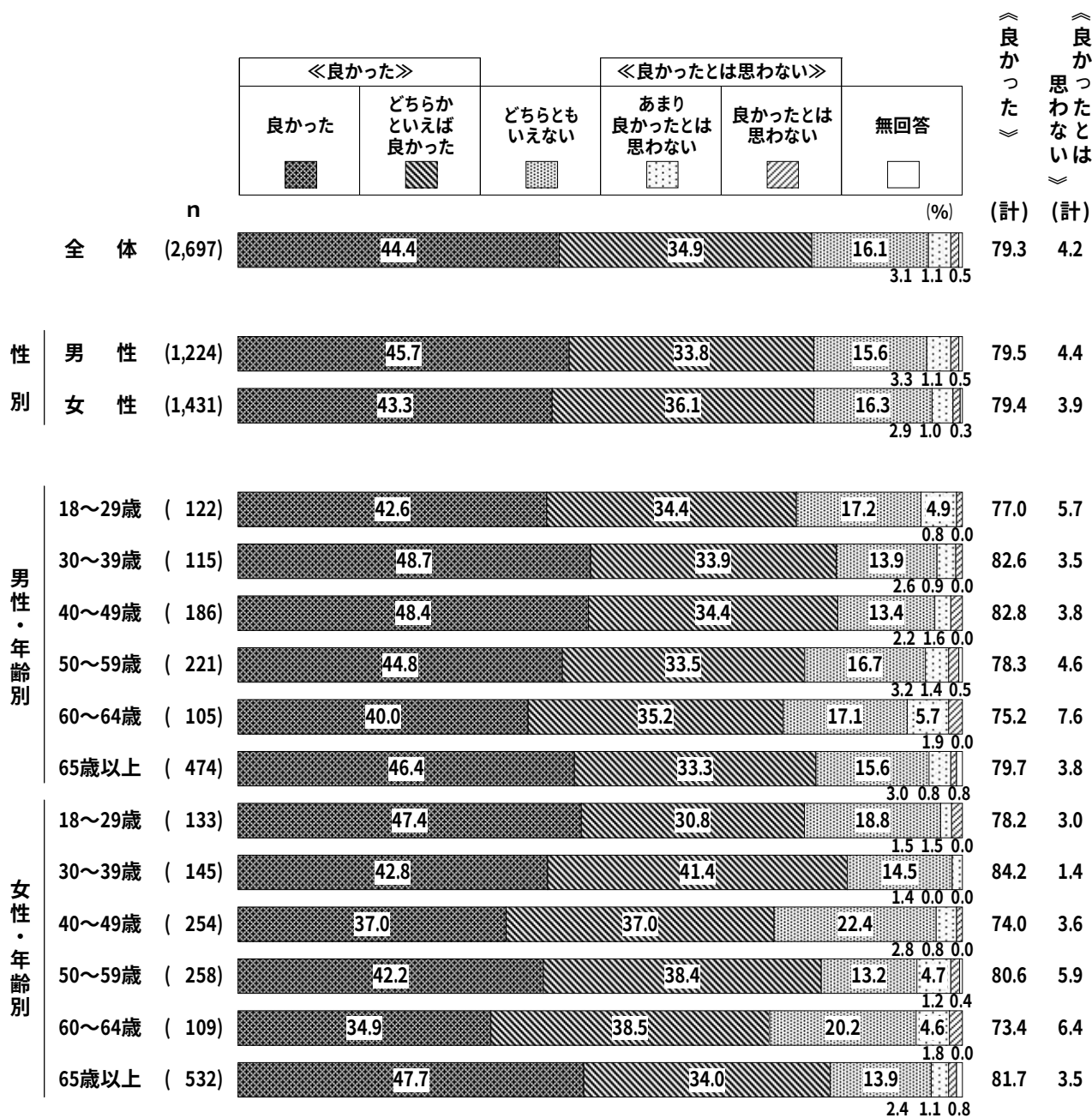
図1-1-1 八王子市に住んで良かったと思うかー全体、経年比較



八王子市に住んで良かったと思うか聞いたところ、「良かった」(44.4%)と「どちらかといえば良かった」(34.9%)を合わせた《良かった》(79.3%)は8割弱となっている。一方、「あまり良かったとは思わない」(3.1%)と「良かったとは思わない」(1.1%)を合わせた《良かったとは思わない》(4.2%)は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」(16.1%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《良かった》は令和2年(2020年)(77.2%)より2.1ポイント増加している。(図1-1-1)

図 1-1-2 八王子市に住んで良かったと思うかー性別、性・年齢別

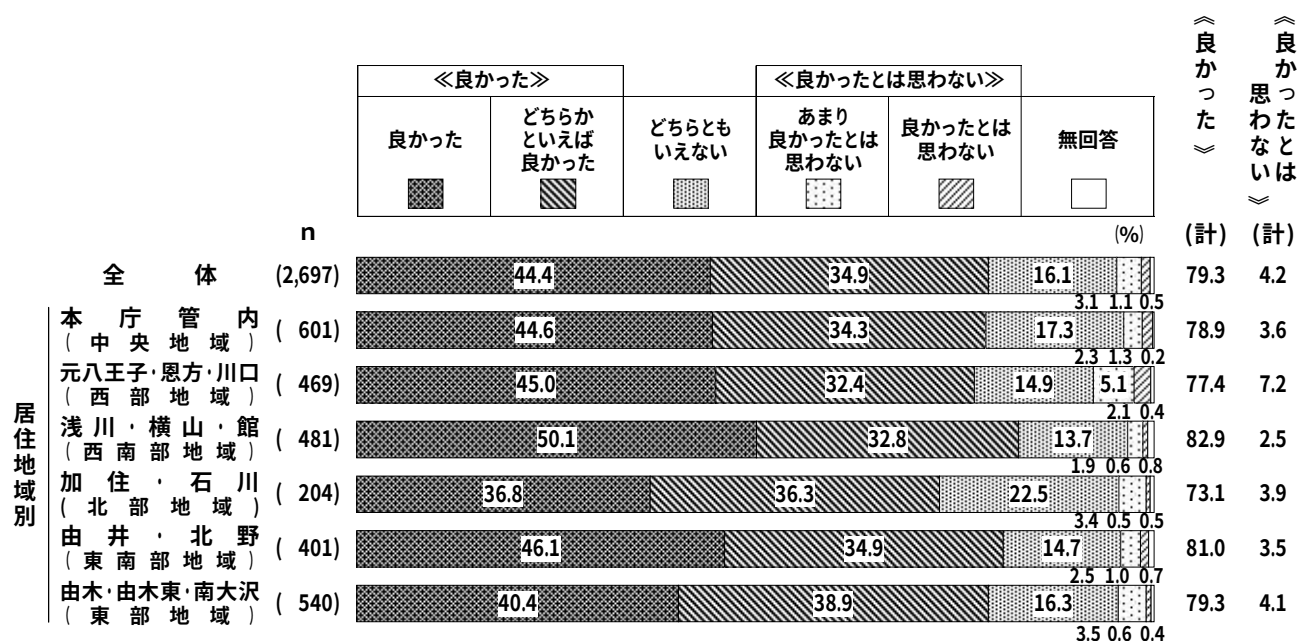


性別にみると、「良かった」は男性（45.7%）が女性（43.3%）より2.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《良かった》は女性30～39歳（84.2%）で8割台半ばと多くなっている。

（図 1-1-2）

図1-1-3 八王子市に住んで良かったと思うかー居住地域別



居住地域別にみると、《良かった》は浅川・横山・館（西南部地域）（82.9%）と由井・北野（東南部地域）（81.0%）で8割強と多くなっている。（図1-1-3）

(2) まちの魅力をどの程度おすすめしたいか

◇自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にすすめたい程度を表す【推奨意欲スコア】は、プラス47.9ポイント

問2 あなたは、自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度おすすめしたいと思いますか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

- ※ここでいう「まちの魅力」とは・・・
- 住みやすさ、働きやすさ、子育てしやすさ、交通や買い物の便利さ

○学習環境、スポーツ環境

○お店、グルメ、特産品、農産物

○歴史・文化

○人物・企業・団体

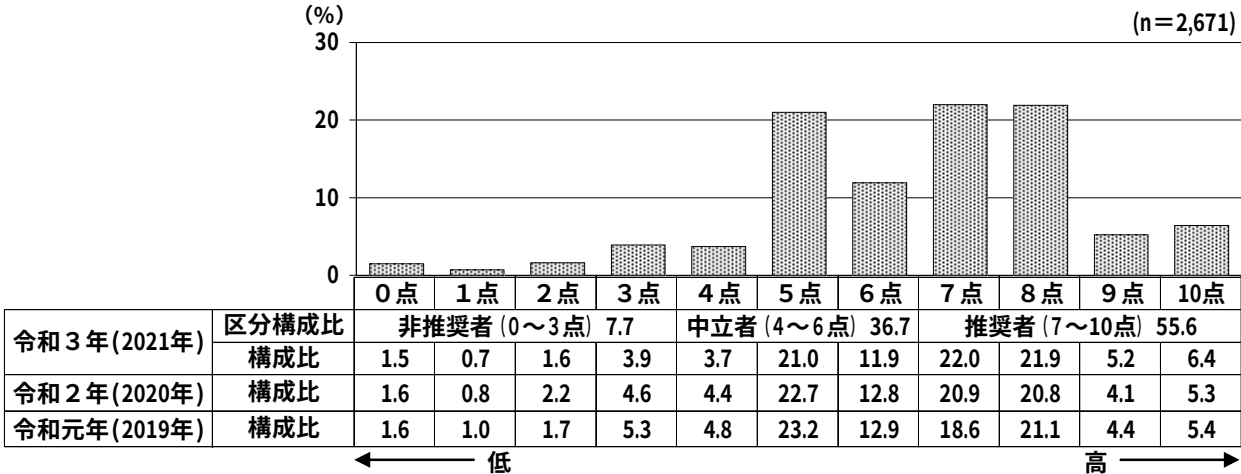
○自然、まちなみ、まちの雰囲気

○イベントやお祭り

○高尾山などの観光スポット

など、どのようなものでも構いません。

図1-2-1 まちの魅力をどの程度おすすめしたいか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 推奨意欲スコアの算出のため、無回答(26人)を除いている。
(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆推奨意欲スコア
推奨者(55.6%)－非推奨者(7.7%)＝推奨意欲スコア(+47.9ポイント)

(注) 推奨意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。
・まちに対する「居住」「来訪」等を推奨する気持ちを0～10点の11段階で測定。
・「推奨者」(7～10点を付けた人)、「中立者」(4～6点を付けた人)、「非推奨者」(0～3点を付けた人)に区分して、「推奨者の割合－非推奨者の割合」を計算。
・最低－100ポイント(全員が非推奨者)から最高+100ポイント(全員が推奨者)までで評価。
・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度すすめたいかを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《推奨者》が55.6%、4～6点を付けた《中立者》が36.7%、0～3点を付けた《非推奨者》が7.7%となっている。この結果を元に《推奨者》の割合から《非推奨者》の割合を引いた【推奨意欲スコア】は+(プラス)47.9ポイントとなる。

前回までの調査と比較すると、「推奨意欲スコア」は令和2年(2020年)(+42.0ポイント)より5.9ポイント増加している。(図1-2-1)

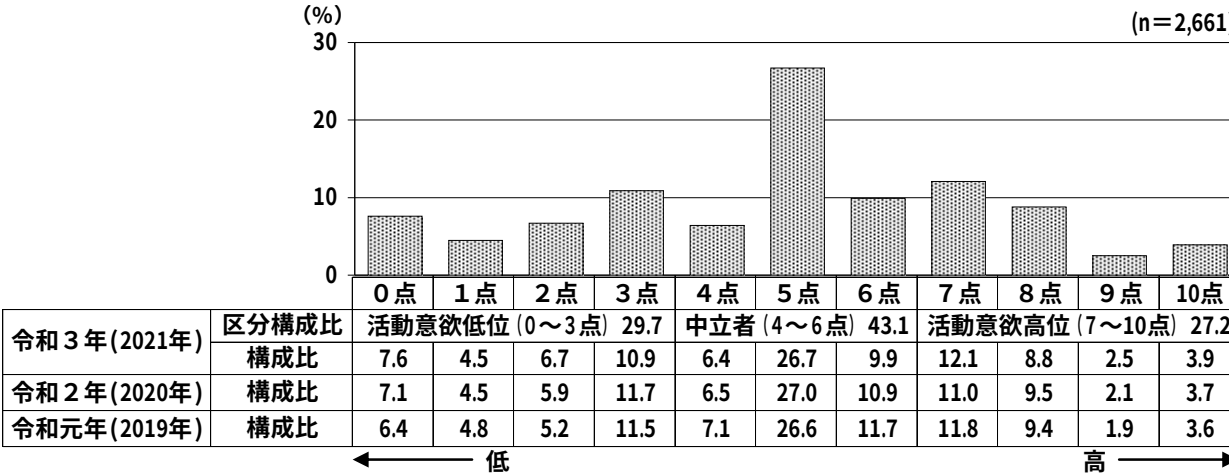
(3) まちのために活動したいと思うか

◇自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを表す【活動意欲スコア】は、マイナス2.5ポイント

問3 あなたは、自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちをお持ちですか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

- ※ここでいう「活動」とは・・・
- 地域のおもしろい情報や役に立つ情報の発信
 - お祭りや文化活動の担い手としての活動
 - イベントの企画・運営やサポート
 - 公園、道路、河川などの維持活動（清掃や除草など）
 - 町会・自治会、子ども会、PTAなどへの参加
 - ボランティアやNPO活動
 - 市政への意見表明や市の審議会などへの参加
- などを幅広く含みます。身近なもの、個人的なものでも構いません。

図1-3-1 まちのために活動したいと思うか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 活動意欲スコアの算出のため、無回答(36人)を除いている。
 (注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆活動意欲スコア

活動意欲高位(27.2%)－活動意欲低位(29.7%)＝活動意欲スコア(－2.5ポイント)

- (注) 活動意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。
- ・活動への意欲を0～10点の11段階で測定。
 - ・「活動意欲高位」(7～10点を付けた人)、「中立者」(4～6点を付けた人)、「活動意欲低位」(0～3点を付けた人)に区分して、「活動意欲高位の割合－活動意欲低位の割合」を計算。
 - ・最低－100ポイント(全員が活動意欲低位)から最高＋100ポイント(全員が活動意欲高位)までで評価。
 - ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《活動意欲高位》が27.2%、4～6点を付けた《中立者》が43.1%、0～3点を付けた《活動意欲低位》が29.7%となっている。この結果を元に《活動意欲高位》の割合から《活動意欲低位》の割合を引いた【活動意欲スコア】は－（マイナス）2.5ポイントとなる。

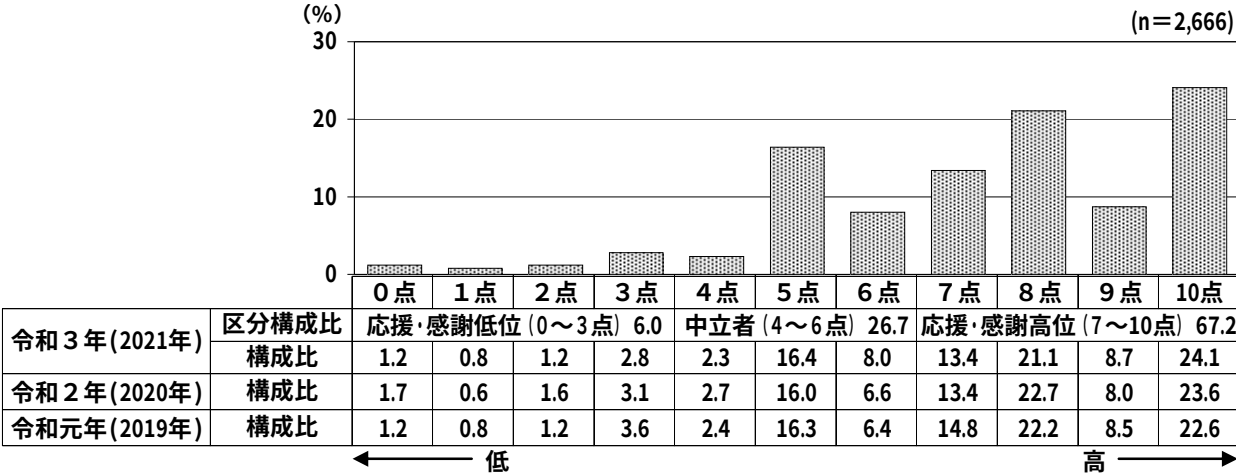
前回までの調査と比較すると、「活動意欲スコア」は令和2年（2020年）（－3.0ポイント）より0.5ポイント増加している。（図1－3－1）

(4) まちのために活動する人への応援や感謝

◇自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを表す【応援・感謝スコア】は、プラス61.2ポイント

問4 あなたは、問3で例示したような活動に参加している人たちに対して、応援したり感謝する気持ちはどのくらいありますか。非常にある場合を10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

図1-4-1 まちのために活動する人への応援や感謝（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 応援・感謝スコアの算出のため、無回答(31人)を除いている。
(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆応援・感謝スコア

応援・感謝高位(67.2%)－応援・感謝低位(6.0%)＝応援・感謝スコア(+61.2ポイント)

- (注) 応援・感謝スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。
- ・ 応援・感謝の気持ちの強さを0～10点の11段階で測定。
 - ・ 「応援・感謝高位」(7～10点を付けた人)、「中立者」(4～6点を付けた人)、「応援・感謝低位」(0～3点を付けた人)に区分して、「応援・感謝高位の割合－応援・感謝低位の割合」を計算。
 - ・ 最低－100ポイント(全員が応援・感謝低位)から最高+100ポイント(全員が応援・感謝高位)までで評価。
 - ・ なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《応援・感謝高位》が67.2%、4～6点を付けた《中立者》が26.7%、0～3点を付けた《応援・感謝低位》が6.0%となっている。この結果を元に《応援・感謝高位》の割合から《応援・感謝低位》の割合を引いた【応援・感謝スコア】は+ (プラス) 61.2ポイントとなる。

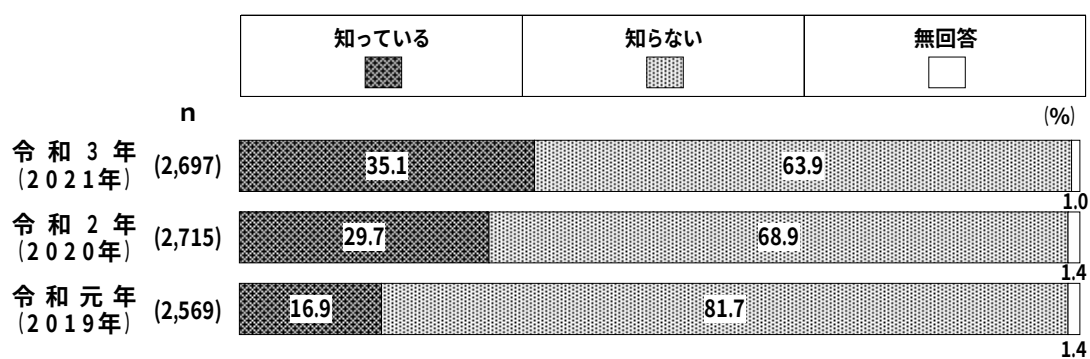
前回の調査と比較すると、「活動意欲スコア」は令和2年(2020年)(60.7ポイント)より0.5ポイント増加している。(図1-4-1)

（５）市のブランドメッセージの周知度

◇「知っている」が３割台半ば

問５ あなたは、市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」を知っていますか。（○は１つだけ）

図１－５－１ 市のブランドメッセージの周知度－全体、経年変化



八王子市のブランドメッセージを知っているか聞いたところ、「知っている」（35.1％）が３割台半ば、「知らない」（63.9％）は６割強となっている。

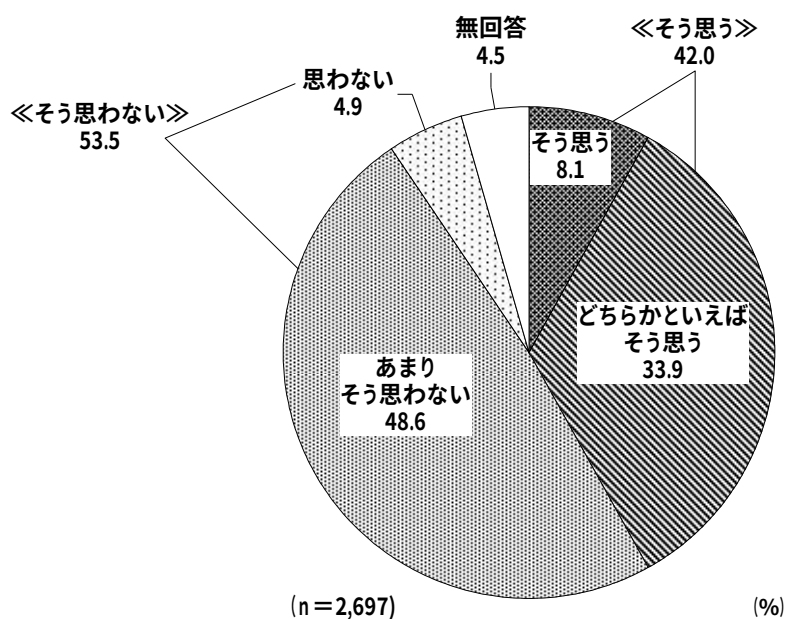
前回までの調査と比較すると、「知っている」は令和２年（2020年）（29.7％）より5.4ポイント増加している。（図１－５－１）

(6) ブランドメッセージどおりのまちと思うか

◇《《そう思う》》が4割強

問6 八王子市は、あなたにとってブランドメッセージどおりのまちであると思いますか。
(○は1つだけ)

図1-6-1 ブランドメッセージどおりのまちと思うかー全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

八王子市はブランドメッセージどおりのまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(8.1%)と「どちらかといえばそう思う」(33.9%)を合わせた《《そう思う》》(42.0%)は4割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(48.6%)と「思わない」(4.9%)を合わせた《《そう思わない》》(53.5%)は5割強となっている。(図1-6-1)

(7) ブランドメッセージどおりのまちであると思う理由（自由意見）

（問6で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」とお答えの方へ）

問6-1 そのように感じる理由を、以下の欄にご自由にお書きください。（自由記述）

八王子市はブランドメッセージどおりのまちであると思うかについて「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた1,131人に、そのように感じる理由を自由記述形式で聞いたところ、661人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載した。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

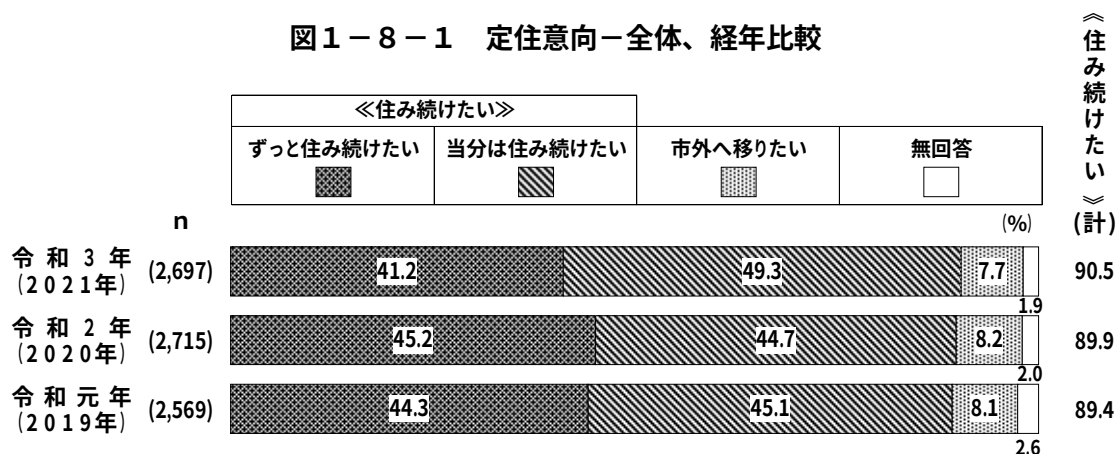
- 広大な市域を持ち、甲州街道の宿場町に始まり、今では4路線が乗り入れる駅前などの活気あふれる中心市街、落ち着いた新興住宅街、自然豊かな郊外の山々などの豊かな環境に恵まれ、多種多様な生き方を選べる。「多摩」とも「東京」とも異なる「八王子」らしさを的確に表していると思います。（男性18～29歳）
- 自分の将来の目標に対しての勉強環境や設備が十分に備わっていると感じたため。
（男性18～29歳）
- 八王子は夢を持って上京する大学生も多く、学園都市として夢を咲かせるための拠点になっていると思うから。（女性30～39歳）
- 都会は窮屈な感じがするが、八王子は伸び伸びとしたイメージがあるため、歩くというキャッチフレーズが良いと思った。（女性30～39歳）
- 八王子に住みながら自営業など、自分の感性で物作りをしながら生計を立てている知り合いが多い。（男性30～39歳）
- 都会的な部分と自然が同時にあり、多様な生活様式に対応しているから。（女性40～49歳）
- 都内の会社に勤めていますが、この1年自宅でリモートワークをしていて、自然と街が身近にある八王子の住みやすさを感じています。（女性40～49歳）
- 小学生の子供がいますが、八王子市や地域の人達にすごく守られていると感じています。規模の大きな街でありながら自然も沢山残っていてとてもいい環境だと思います。良い環境で学び、素敵な大人に育ってほしいという私達の気持ちがそのままブランドメッセージになったと思います。（男性40～49歳）
- 若い人や女性が、農業や自分の特技を生かしたことで、仕事をしていることを知ったから。
（女性50～59歳）
- 緑が豊富で、商業施設もそれなりに整っている。農地もある。大学など、学べる施設も数多くあり、多方面を学習することもできる。ワークライフバランスの実現にも適した街だと思えるから。
（女性50～59歳）
- ビルではなく緑に囲まれる郊外居住はコロナ禍において、今まで以上に魅力的なところになっていると感じる。都会ではないけれど田舎でもない、中間色の存在は貴重。（女性50～59歳）
- 八王子市には、多くの企業、教育機関があり、交通インフラや自然環境も優れている。どのような将来設計、自己研鑽、自己実現を目指すにも最適な土地があると感じます。（男性60～64歳）
- 私自身が日常的によく歩いており、自然が好きである為。ご近所の方、サークルの方とも自然観察したり、ウォーキングに出掛けますが、歩く度に新発見があり、楽しめている。
（女性65歳以上）

(8) 定住意向

◇《住み続けたい》が約9割

問7 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

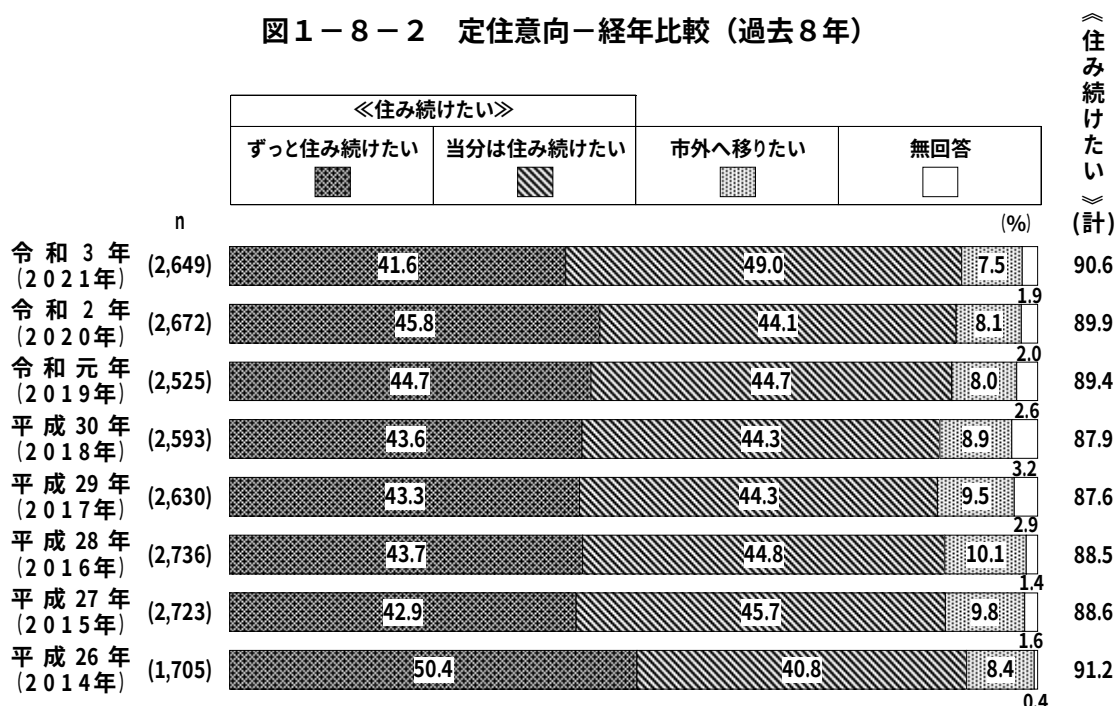
図1-8-1 定住意向－全体、経年比較



これからも八王子市に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(41.2%)と「当分は住み続けたい」(49.3%)を合わせた《住み続けたい》(90.5%)は約9割となっている。一方、「市外へ移りたい」(7.7%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」は令和2年(2020年)(45.2%)より4.0ポイント減少している。(図1-8-1)

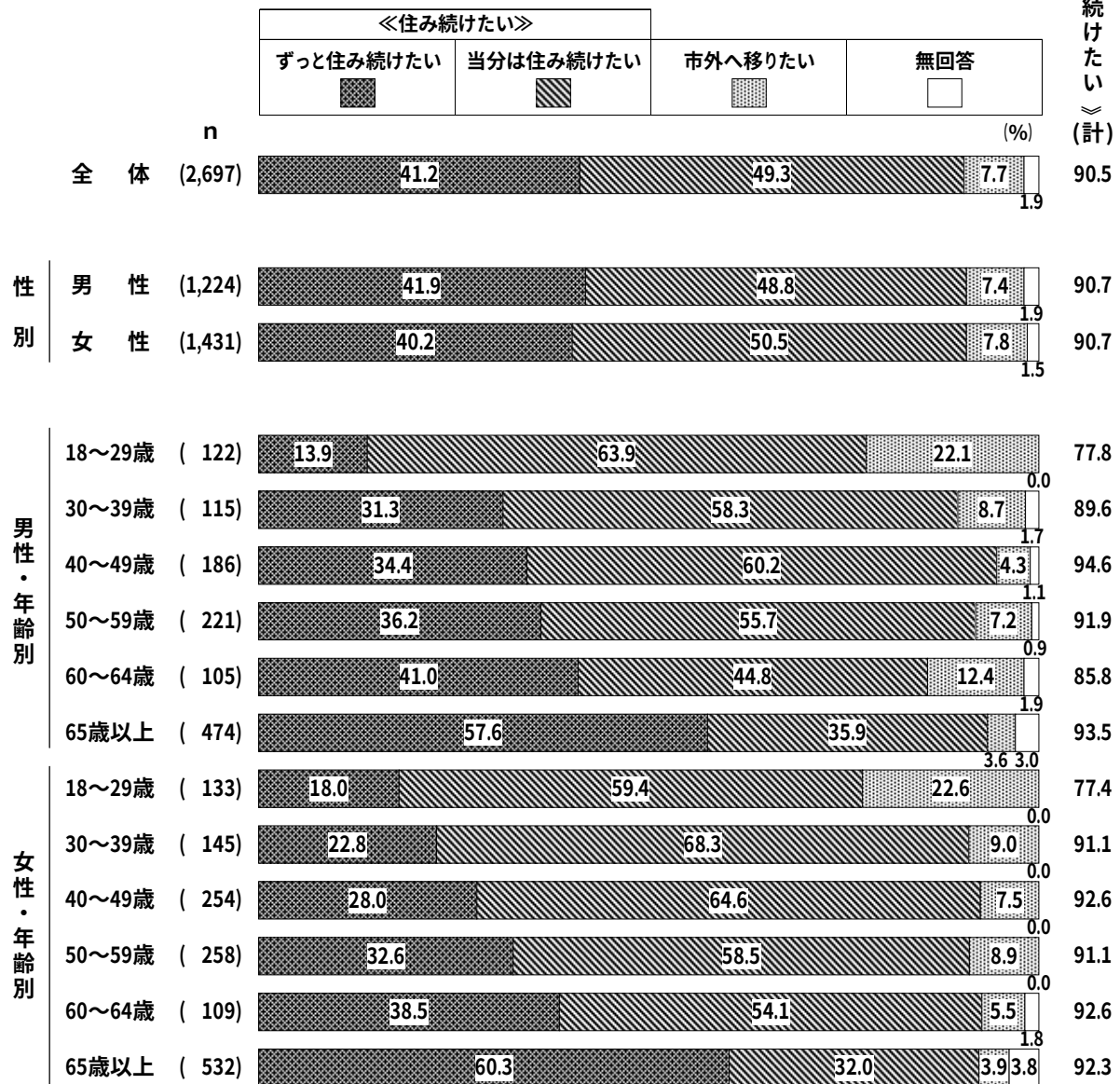
図1-8-2 定住意向－経年比較(過去8年)



※調査対象者を20歳以上としていた平成27年(2015年)以前の調査結果と比較するため、28年(2016年)～令和3年(2021年)は、18歳及び19歳を除いた数を使用している。

過去8年間の調査結果を比較すると、《住み続けたい》は各年9割近くから9割強の間にあり、大きな傾向の違いはみられない。(図1-8-2)

図1－8－3 定住意向－性別、性・年齢別

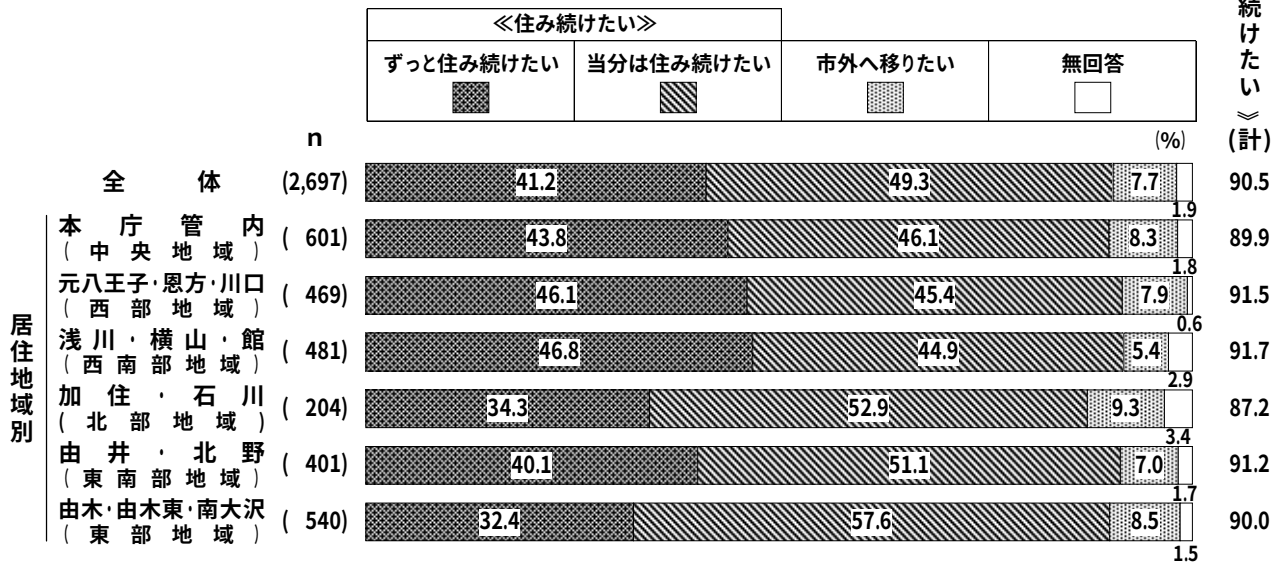


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は女性65歳以上（60.3%）で約6割と多くなっている。《住み続けたい》は男性40～49歳（94.6%）で9割台半ばと多くなっている。一方、「市外へ移りたい」は女性18～29歳（22.6%）と男性18～29歳（22.1%）で2割強と多くなっている。

（図1－8－3）

図 1－8－4 定住意向－居住地域別



居住地域別にみると、「ずっと住み続けたい」は浅川・横山・館（西南部地域）（46.8%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（46.1%）で5割近くと多くなっている。（図 1－8－4）

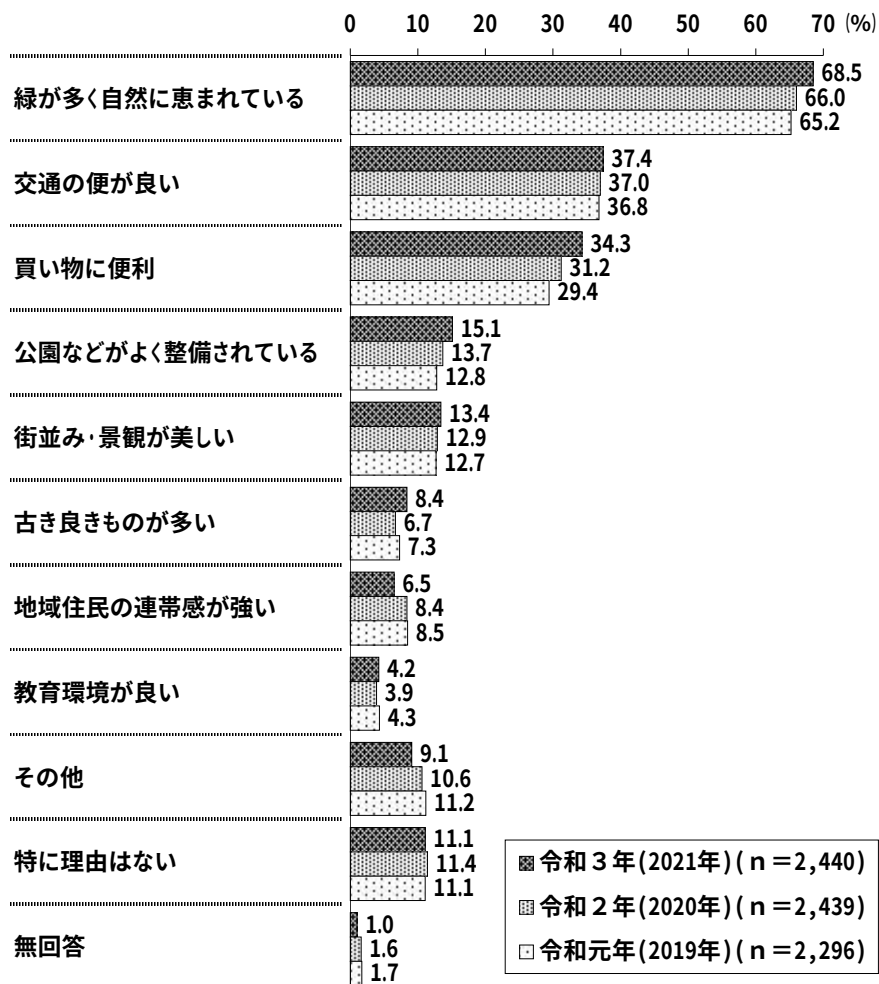
(9) 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が7割近く

(問7で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」とお答えの方へ)

問7-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

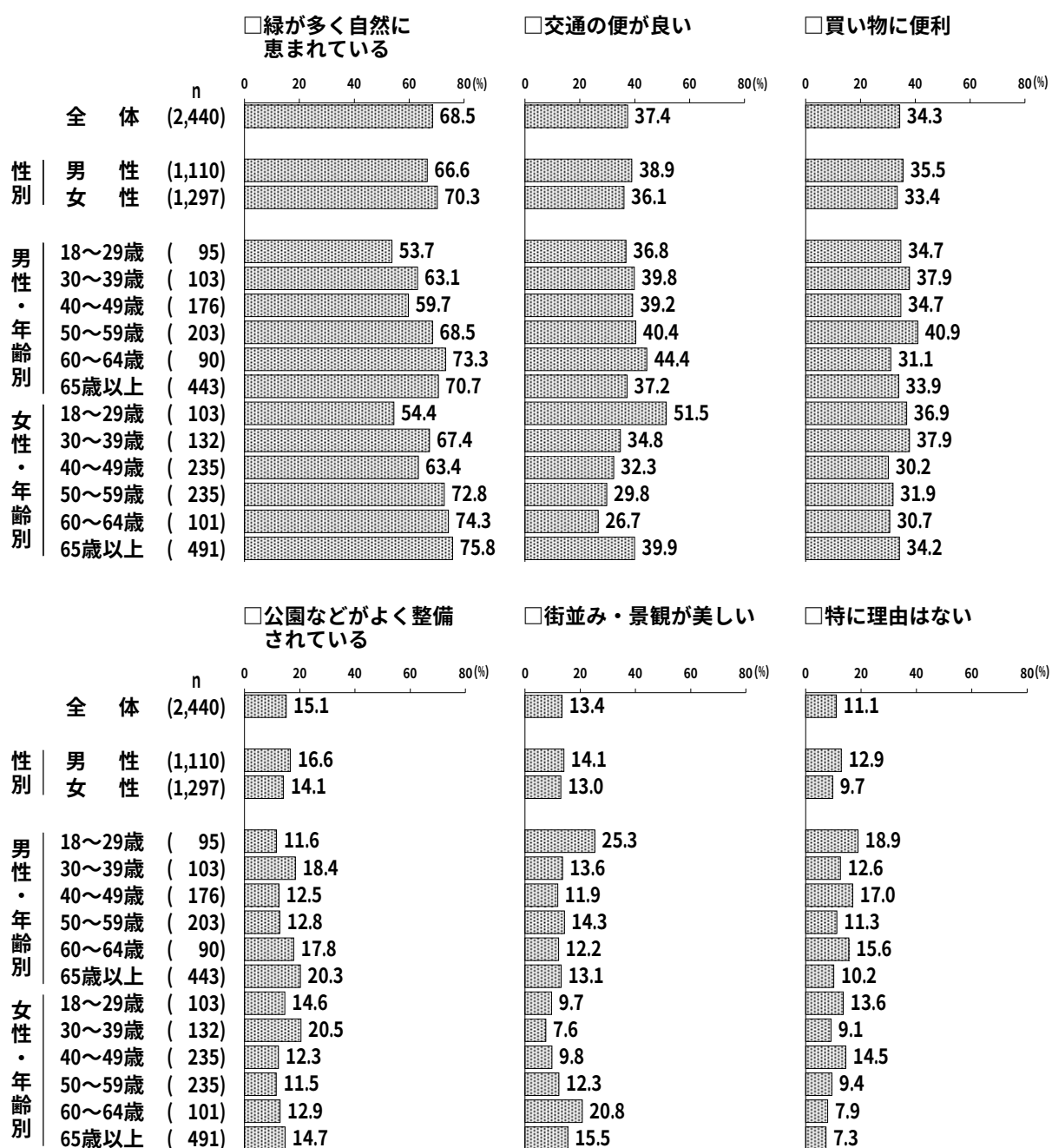
図1-9-1 住み続けたい理由-全体、経年比較



八王子市に「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と回答した2,440人に、その理由を聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」(68.5%)が7割近くで最も多くなっている。次いで「交通の便が良い」(37.4%)、「買い物に便利」(34.3%)、「公園などがよく整備されている」(15.1%)、「街並み・景観が美しい」(13.4%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「買い物に便利」は令和2年(2020年)(31.2%)より3.1ポイント、「緑が多く自然に恵まれている」は令和2年(2020年)(66.0%)より2.5ポイント、それぞれ増加している。(図1-9-1)

図1－9－2 住み続けたい理由－性別、性・年齢別（上位5位＋「特に理由はない」）

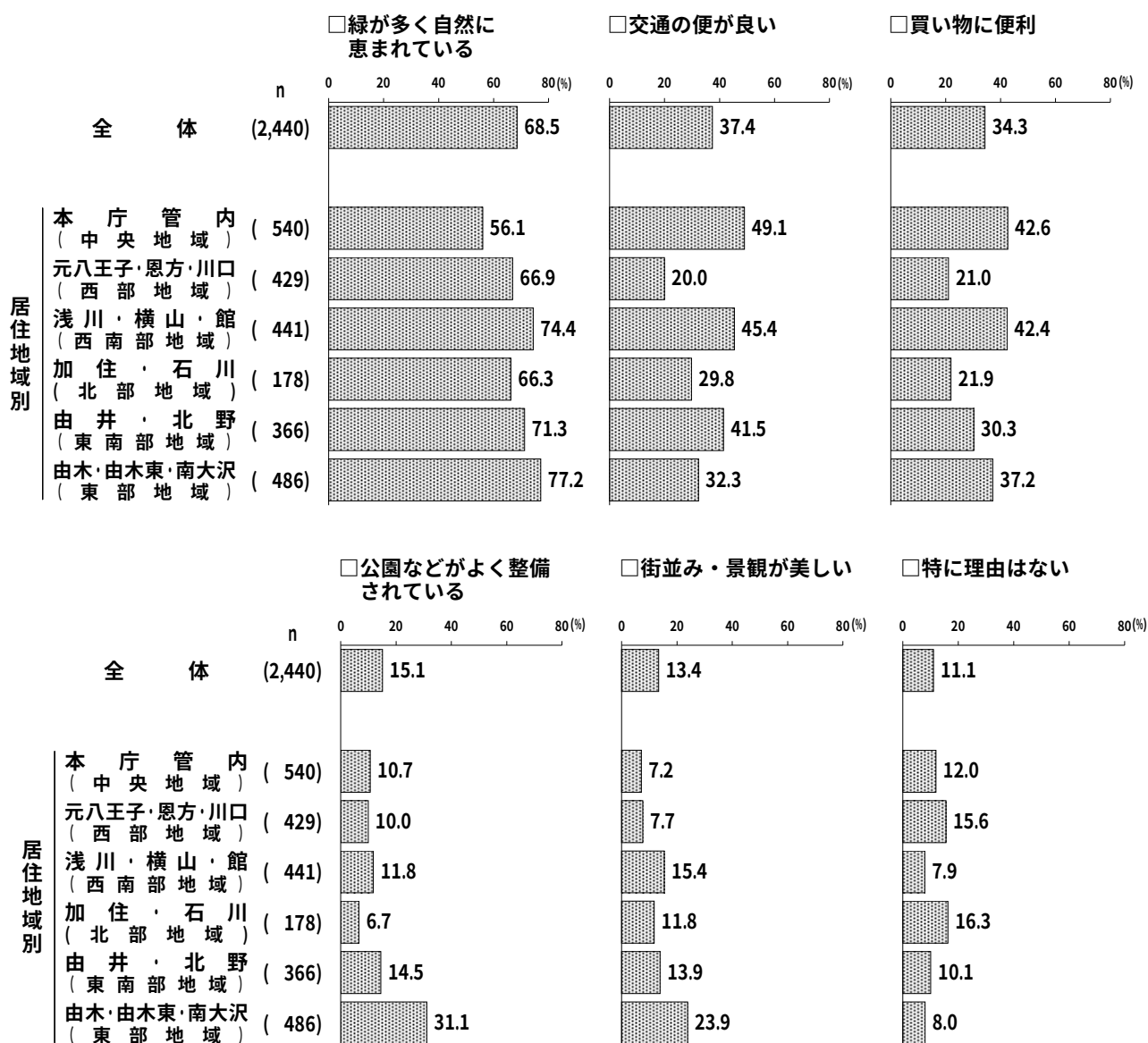


性別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は女性（70.3%）が男性（66.6%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は女性60～64歳（74.3%）と女性65歳以上（75.8%）で7割台半ばと多くなっている。「交通の便が良い」は女性18～29歳（51.5%）で5割強と多くなっている。「買い物に便利」は男性50～59歳（40.9%）で約4割と多くなっている。

（図1－9－2）

図 1-9-3 住み続けたい理由－居住地域別（上位 5 位＋「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(77.2%)で8割近くと多くなっている。「交通の便が良い」は本庁管内(中央地域)(49.1%)で5割弱と多くなっている。「買い物に便利」は本庁管内(中央地域)(42.6%)と浅川・横山・館(西南部地域)(42.4%)で4割強と多くなっている。(図1-9-3)

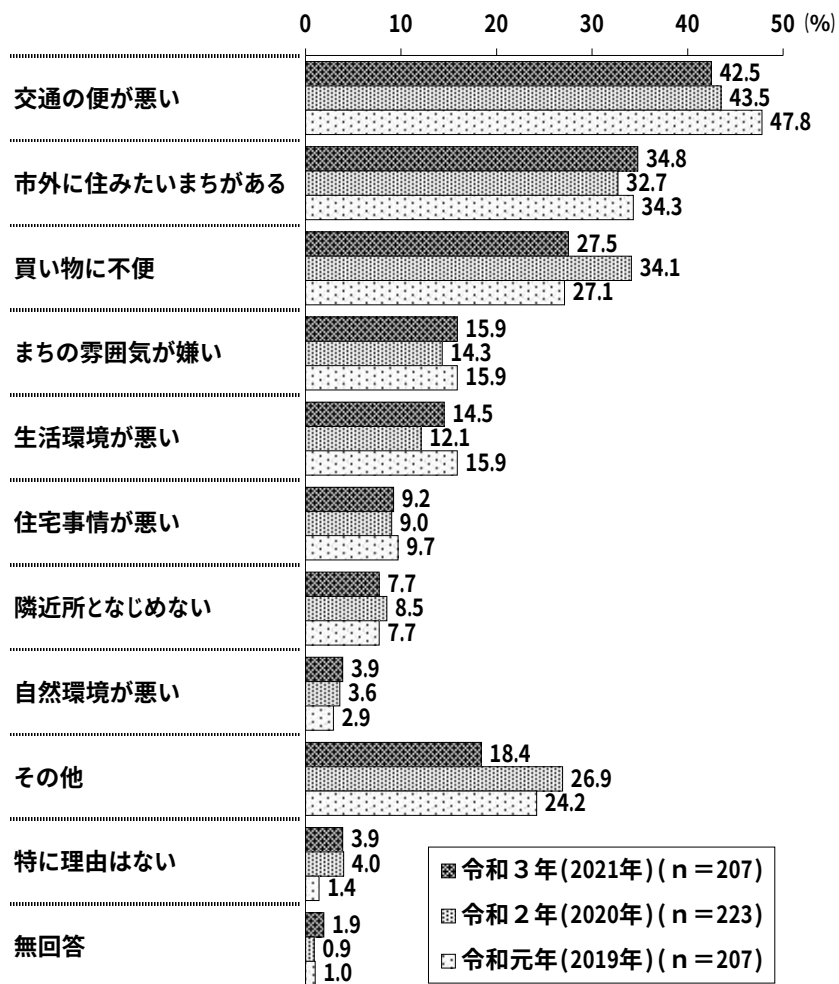
(10) 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が4割強

(問7で「市外へ移りたい」とお答えの方へ)

問7-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

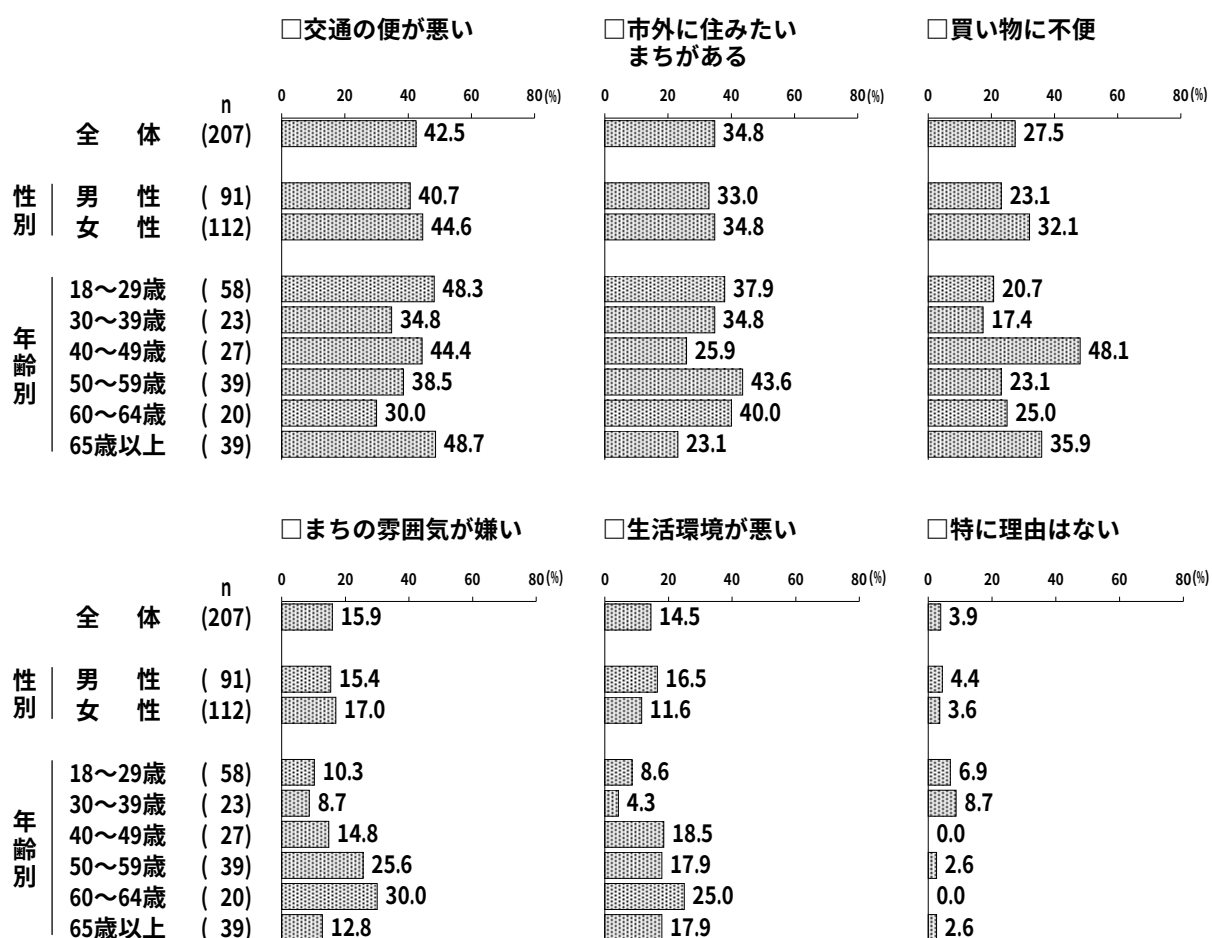
図1-10-1 市外へ移りたい理由－全体、経年比較



八王子市から「市外へ移りたい」と回答した207人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(42.5%)が4割強で最も多くなっている。次いで「市外に住みたいまちがある」(34.8%)、「買い物に不便」(27.5%)、「まちの雰囲気が嫌い」(15.9%)、「生活環境が悪い」(14.5%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「生活環境が悪い」は令和2年(2020年)(12.1%)より2.4ポイント増加している。一方、「買い物に不便」は令和2年(2020年)(34.1%)より6.6ポイント減少している。(図1-10-1)

図1-10-2 市外へ移りたい理由－性別、年齢別（上位5位＋「特に理由はない」）

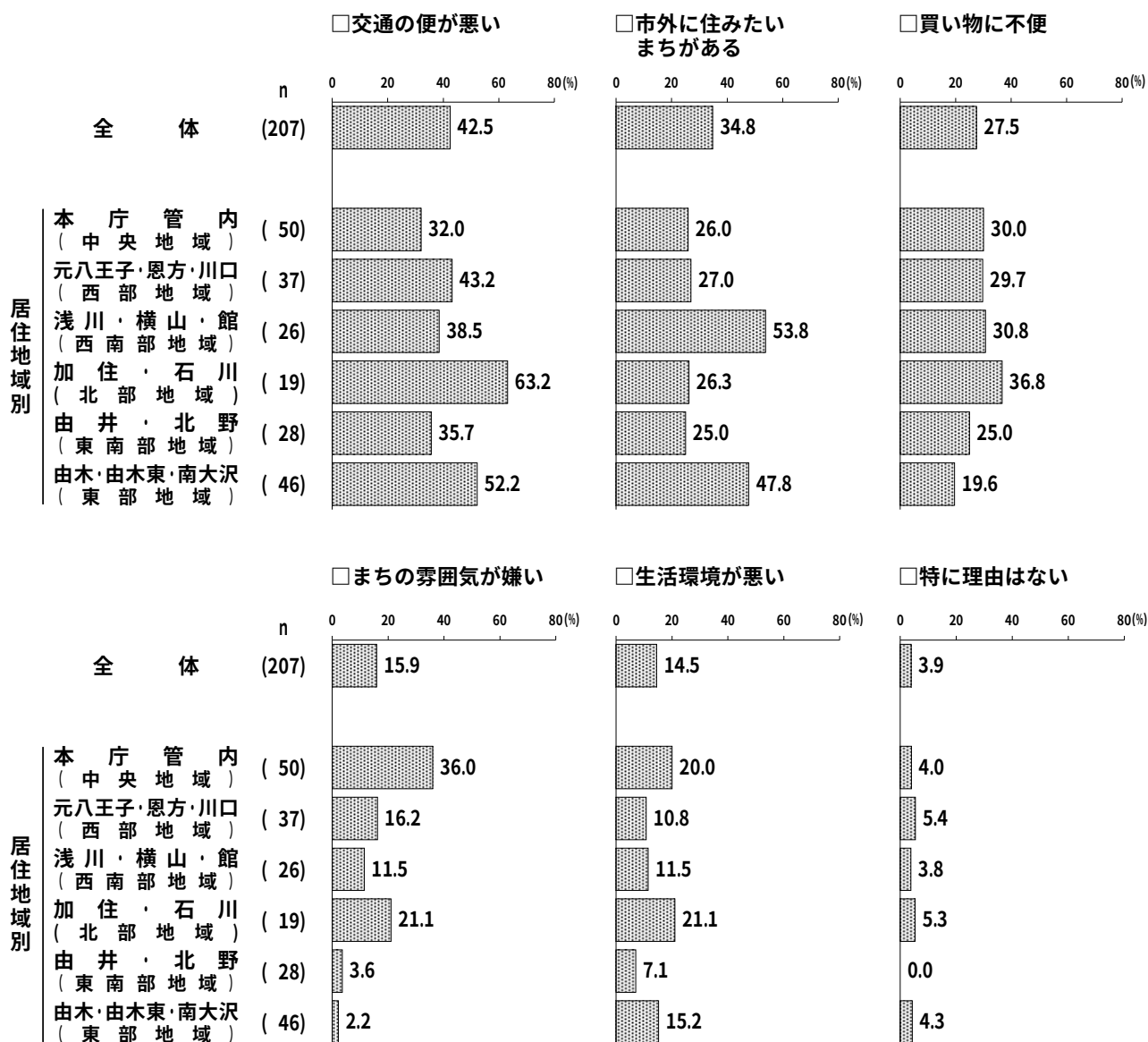


性別にみると、「買い物に不便」は女性（32.1%）が男性（23.1%）より9.0ポイント、「交通の便が悪い」は女性（44.6%）が男性（40.7%）より3.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「生活環境が悪い」は男性（16.5%）が女性（11.6%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」は18～29歳（48.3%）と65歳以上（48.7%）で5割近くと多くなっている。「市外に住みたいまちがある」は50～59歳（43.6%）で4割強と多くなっている。

（図1-10-2）

図1-10-3 市外へ移りたい理由－居住地域別（上位5位＋「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（52.2%）で5割強と多くなっている。「市外に住みたいまちがある」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（47.8%）で5割近くと多くなっている。（図1-10-3）

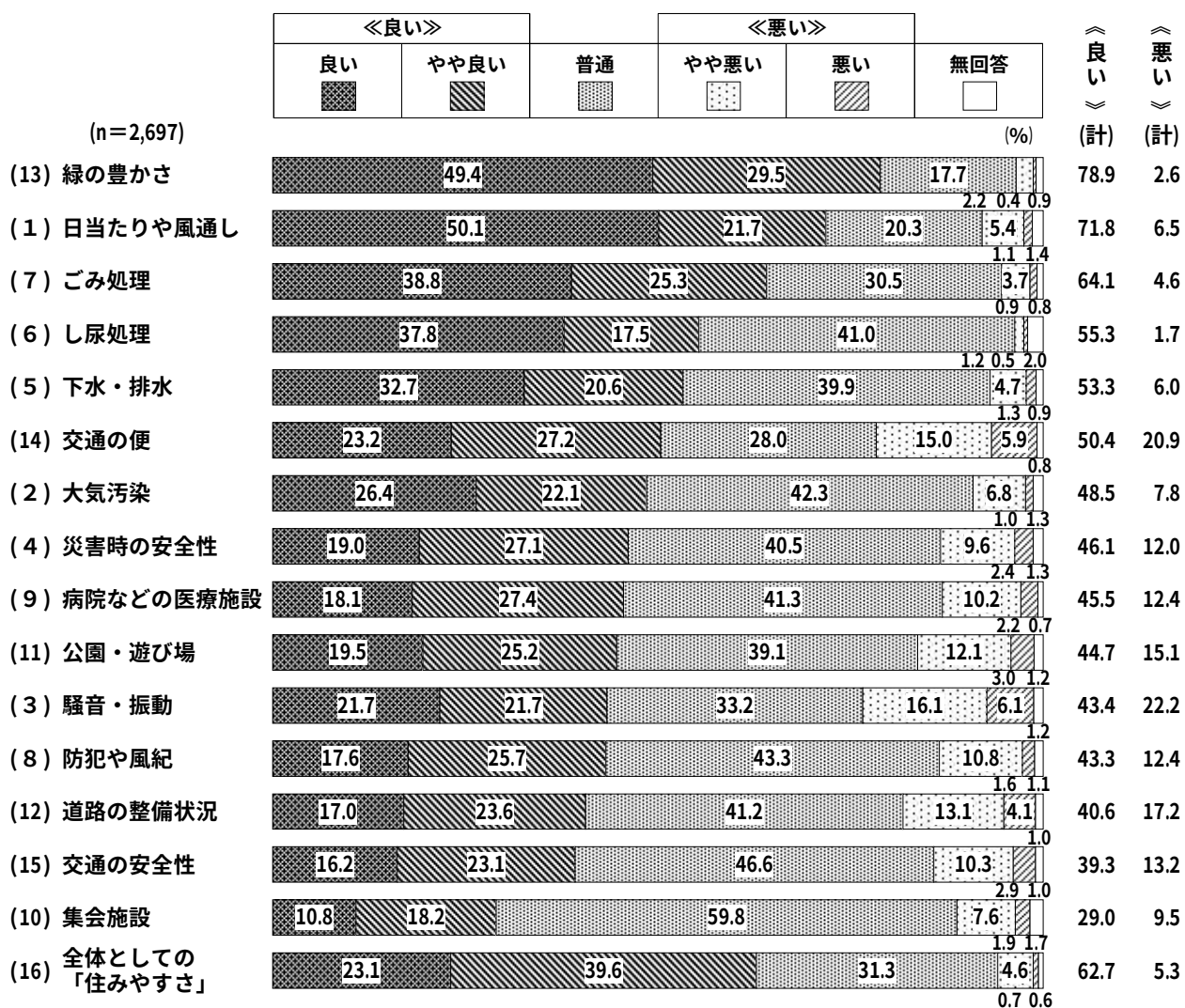
(11) 生活環境の評価

◇《良い》は、「緑の豊かさ」が8割近く、「日当たりや風通し」が7割強

問 8 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1) ～ (16) の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つつ)

図 1-11-1 生活環境の評価－全体



(注) (16) 全体としての「住みやすさ」を除き、「良い」と「やや良い」を合算し、比率の高い順に並べた。

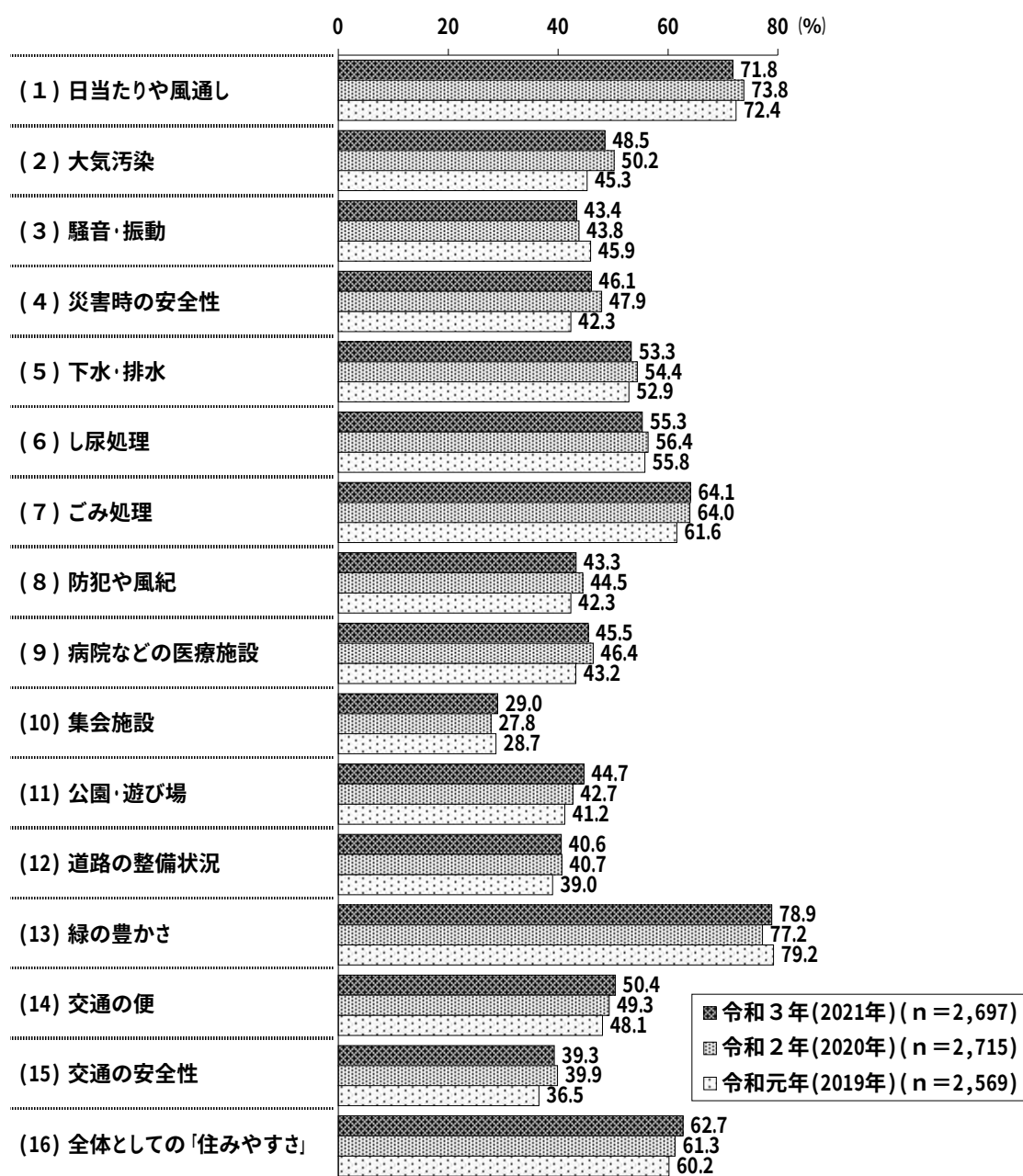
周囲の生活環境について日頃どのように感じているか聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》は、(13) 緑の豊かさ (78.9%) が8割近くで最も多くなっている。次いで (1) 日当たりや風通し (71.8%)、(7) ごみ処理 (64.1%) などの順で上位となっている。

一方、「やや悪い」と「悪い」を合わせた《悪い》は、(3) 騒音・振動 (22.2%) が2割強で最も多く、次いで (14) 交通の便 (20.9%) などの順となっている。

また、(16) 全体としての「住みやすさ」は、《良い》 (62.7%) が6割強となっている。

(図 1-11-1)

図 1-11-2 生活環境の評価—経年比較（「良い」＋「やや良い」）



「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》について前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)より、(11)公園・遊び場で2.0ポイント増加している。一方、(1)日当たりや風通しで2.0ポイント減少している。(図1-11-2)

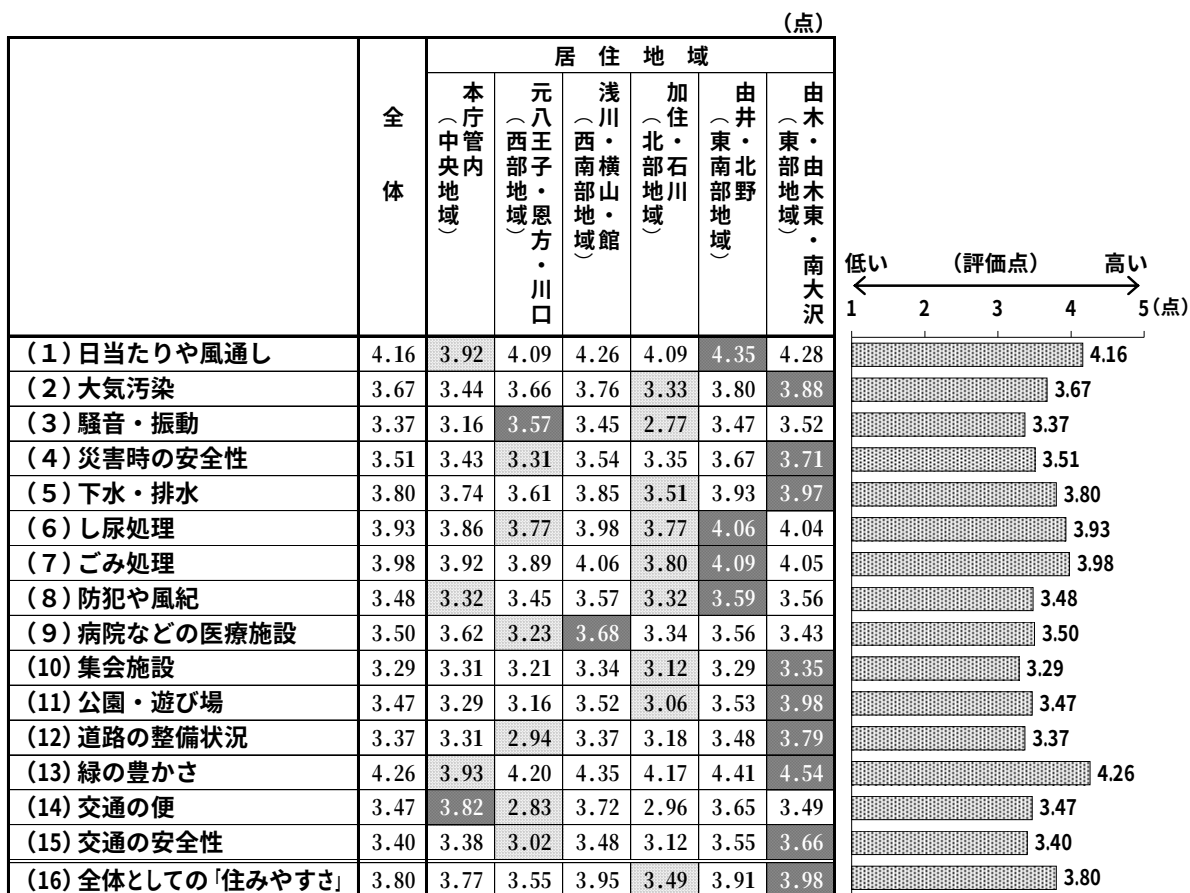
加重平均値（満足度）

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比率をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \left[\left(\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} \right) + \left(\text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} \right) + \left(\text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \right) + \left(\text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} \right) + \left(\text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点} \right) \right] \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点から1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど評価は高くなり、1.00点に近くなるほど評価が低くなる。

図1-11-3 生活環境の評価－加重平均



(注) は項目内での最高値 は項目内での最低値

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの5項目は次のようになっている。

【上 位】

緑の豊かさ (4.26点)
日当たりや風通し (4.16点)
ごみ処理 (3.98点)
し尿処理 (3.93点)
下水・排水 (3.80点)

【下 位】

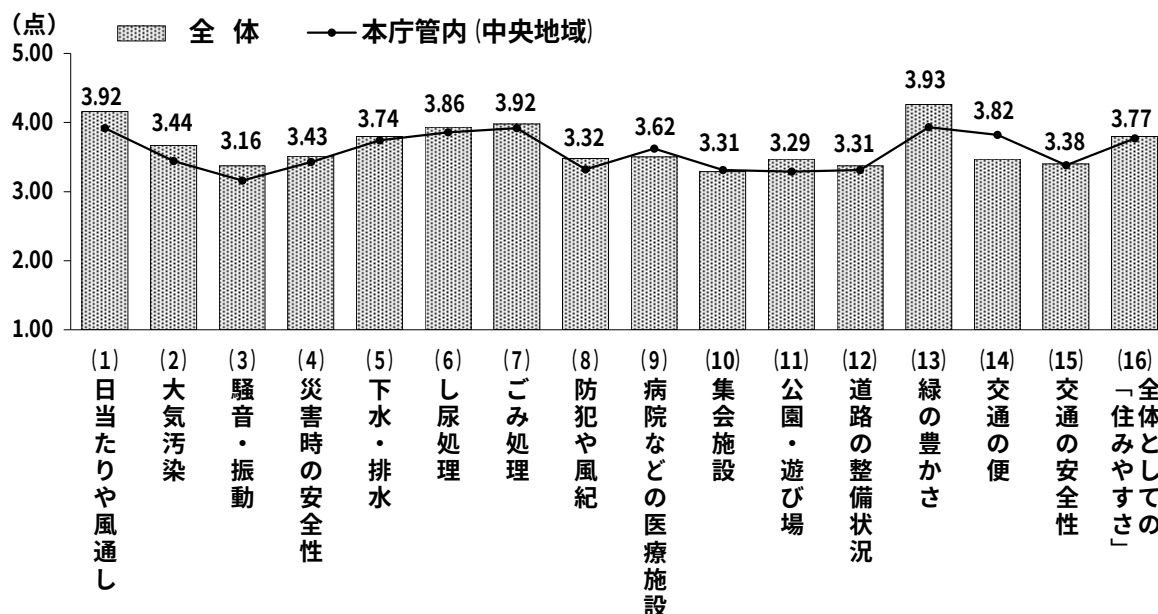
集会施設 (3.29点)
騒音・振動 (3.37点)
道路の整備状況 (3.37点)
交通の安全性 (3.40点)
公園・遊び場 (3.47点)
交通の便 (3.47点) (図1-11-3)

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.35ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは（13）緑の豊かさ（-0.33ポイント）となっている。（図1-11-4）

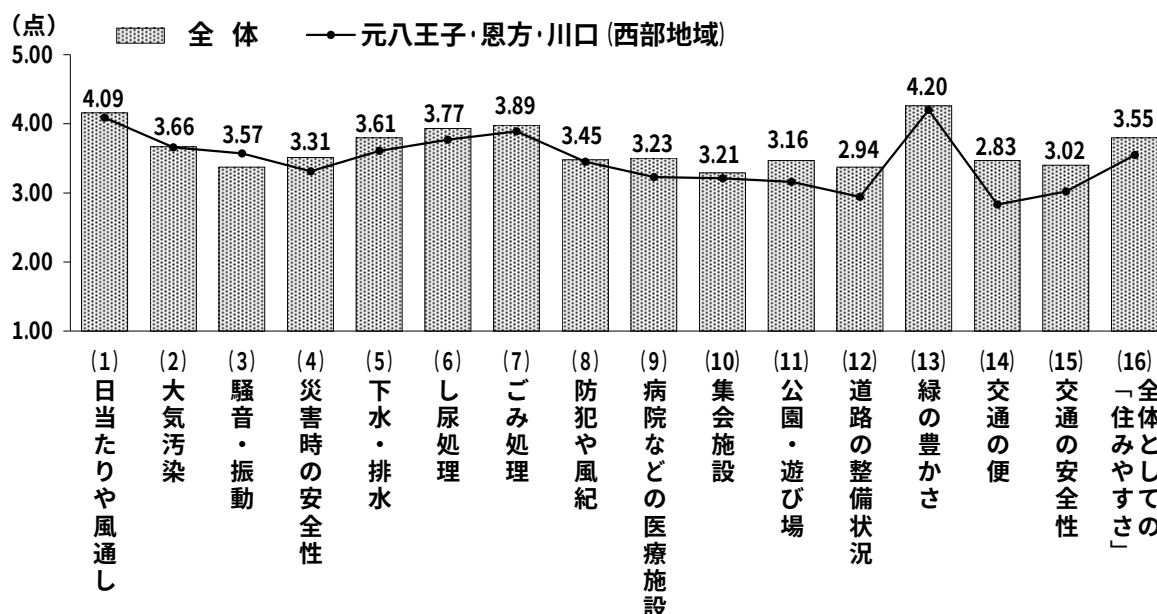
図1-11-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内（中央地域）」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中1項目で、（3）騒音・振動（+0.20ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（-0.64ポイント）となっている。（図1-11-5）

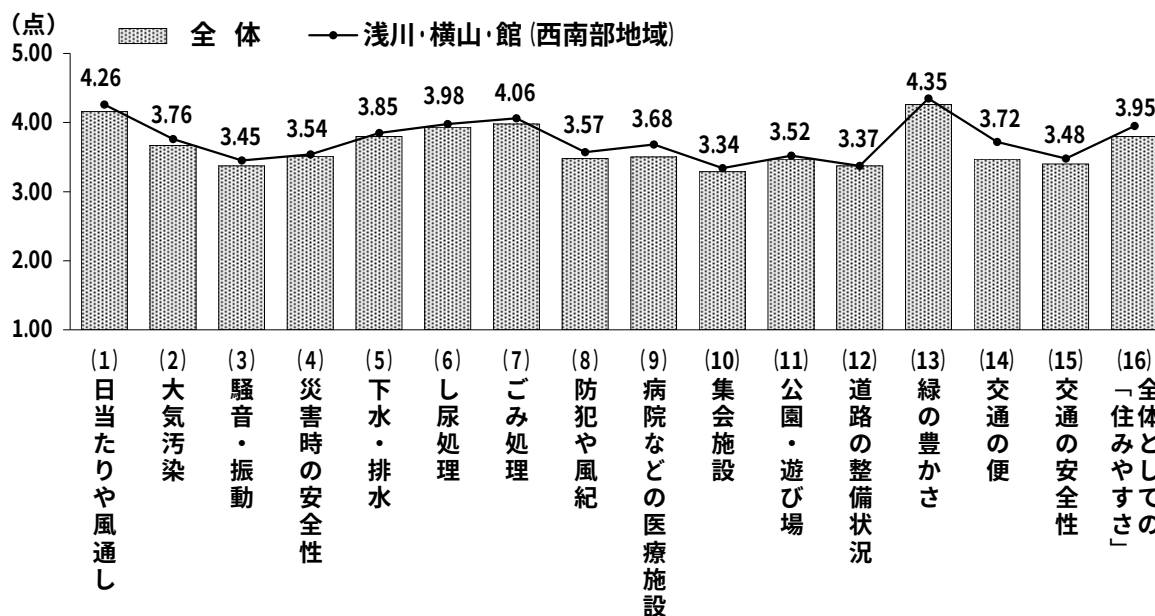
図1-11-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口（西部地域）」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.25ポイント）となっており、下回っている項目はない。（図1-11-6）

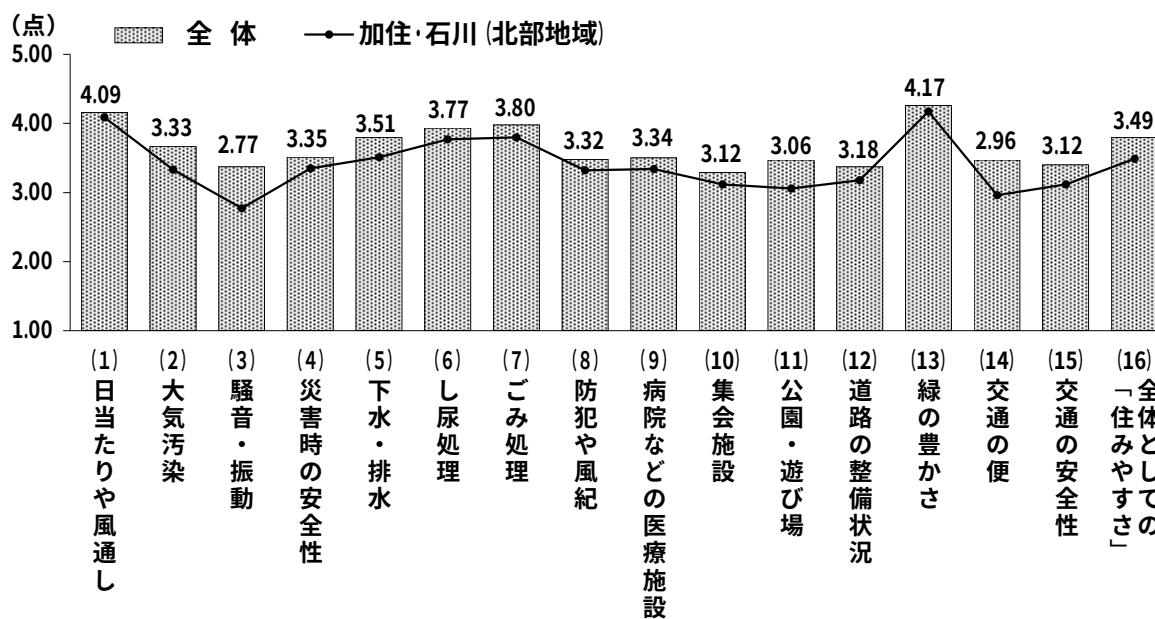
図1-11-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館（西南部地域）」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より全ての項目で下回っており、最も差が大きいのは（3）騒音・振動（-0.60ポイント）となっている。（図1-11-7）

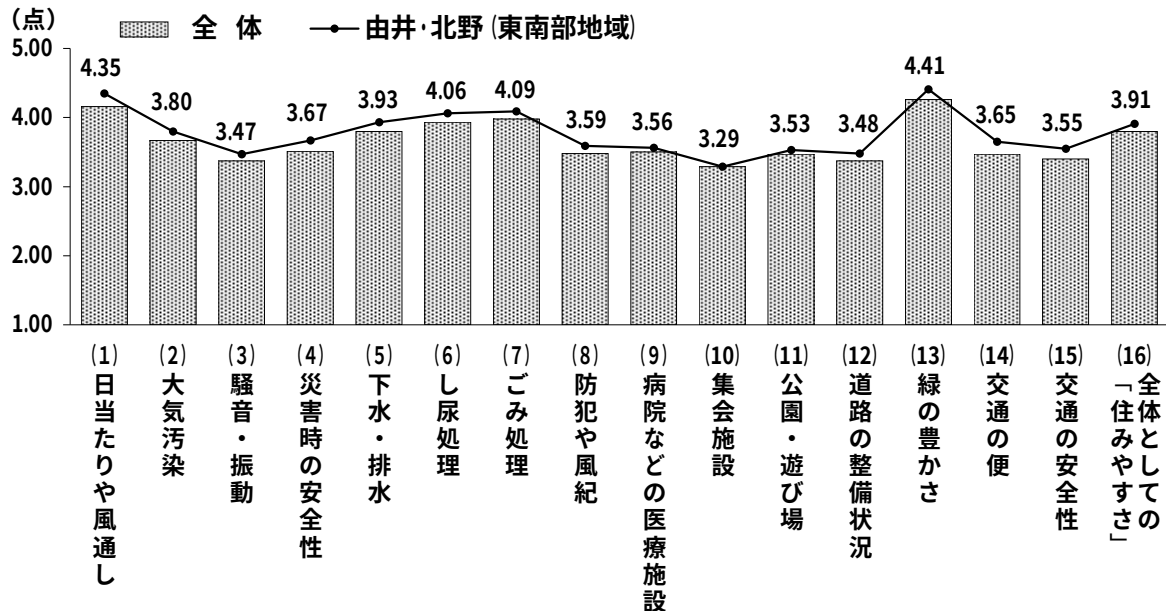
図1-11-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川（北部地域）」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（１）日当たりや風通し（+0.19ポイント）となっており、下回っている項目はない。（図１－11－８）

図１－11－８ 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由井・北野（東南部地域）」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（11）公園・遊び場（+0.51ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中1項目で、（９）病院などの医療施設（-0.07ポイント）となっている。（図１－11－９）

図１－11－９ 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」

